



信仰の二つの源泉：御言葉と聖霊

ジャン・ペンケレシ神父

神のことば・・・本当の神のことを聞いたとき、初めて神を知ることが出来、知った神を受け入れたら信じるようになります。神は旧約時代に、ご自分を唯一の神として、また永遠の存在（ヤーウエ：私はある）を啓示なさいました。万物を存在させ、全能の力で全てを支配しておられる神、全ての被造物を愛し善と悪に報いる神、イスラエルをご自分の民として選んで多くの恵みで祝福された神としてご自分を示されました。

それから神は御子を私たちのところに遣わし、ご自分の愛と永遠の命を与える救いの計画を知らせ、御子イエスの復活によって体の復活と永遠の命の保証を与えられました。使徒たちは全能の偉大な神を固く信じていました。イエスの教えを聞き、行いを見て、イエスが人間になった全能の神であることを疑い無く信じました。

◆これらの出来事と教えは全て、聖書に記されています。神のことばは信仰の元です。

聖霊・・・しかし弟子たちは、イエスが復活してからも、宣言なさった神の国の本当の意味がまだ分かっていませんでした。（使 1:8）神の国は昔栄えたダビドの国を復興される、と思いついていました。そこでイエスは聖霊の降臨を約束して、彼らの目の前で天に上げられました。

その時から彼らは、聖霊が降るように、降るまで真剣に祈り始めました。そして、九日目に、五旬祭という大祝日に、聖霊が降りました。彼らは完全に新しい人間に変えられました。ユダヤ人を恐れて閉じ籠っていた二階の間を出て、イエスの復活を力強く宣言して、信じて洗礼を受けた 3,000 人も同じように完全に新しい者に変えられました。今まで知り合いではなかったのに親しい仲間になり、共に食事をし、助け合うのでした。彼らは最初のキリスト者です。世の終わりまで、同じ過程を経てキリスト者になります。

使徒たちは教えを与え、群れを指導したので、教会教導職が生まれました。パンを裂くこと（感謝の祭儀）と他の秘跡、預言・異言・癒しなどの賜物はその中に現れました。

神の言葉と聖霊は、世の終わりまで信仰生活の源泉です。今日でも、教会教導職と秘跡、聖霊の賜物と様々な奉仕が、御言葉と聖霊によって生かされているとき、生きがいと力があって、信じる人々を造り上げて活かし、キリストの救いを証します。

自分の信仰生活の中に、この二つの流れに潤されるのは、私たち一人一人の責任です。

- ❖ 御言葉を旧約と新約聖書 1 章以上ずつを、連続的に、毎日ゆっくり読むことによって、御言葉の泉から水を汲んで、神をますます深く知るようになります。
- ❖ 聖霊の働きを賛美し、願い、計画などをいつも委ねて、その導きによって、真理を深く悟り、愛によって生きる力と、キリストの救いを伝える大胆さを受けます。

永遠の命を得るためですから、全力を尽くす価値があるではありませんか。